

2学期も10月を迎えます。

夏休みが終わり、8月27日(水)から始まった2学期ですが、もうすぐ10月を迎えるところとなりました。2学期としては、1ヶ月が過ぎ、学期初めに立てためあてや目標を振り返る時期でもあります。



ある子どもは、学習について目標を立て、漢字テストやワークテストで頑張ることを決めていました。また、ある子どもは、教室の中でしっかりと生活することを目標にした子どももいました。それぞれが立てためあてや目標は、子供たち一人一人が成長し、変わろうとする気持ちの表れです。

9月24日(水)には、全校朝会をリモートで行いましたが、子供たちには、めあてや目標に向かって、改めて頑張ろうとする気持ちを確かめてほしいという思いを含め、振り返ってみようと言いました。どの子供たちも成長しようという気持ちをもっています。ほんの小さな成長や変化も大切にして、励ましたり褒めたりしながら、大きな成長や変化に繋げていきたいと思う今日この頃です。各ご家庭においても、子供たちの成長や変化、変容に目を向けていただき、ちょっとした頑張りの励ましたり、褒めたりしていただければと思います。

この励ましや褒め言葉が次へのステップのきっかけになることを、これまでの教員生活の中でたくさん感じてきているところです。学校とご家庭が協働して、子供たちの成長やよりよい変化、変容を図っていききたいと思います。

消防写生会、ブックマラソン、自由研究発表会での表彰



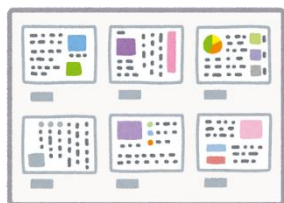
上記に書いたように9月24日(水)には、全校朝会を行いました。

その際に、一学期に行った消防写生会の入賞者の表彰がありました。本校からは5名の子供たちが、立川消防署の署長から、賞状と景品を直接いただく機会となりました。今年度より、消防署の方が来校して表彰していただくこととなり、子供たちにとって、より貴重な時間となったと思います。

また、消防写生会の表彰の後には、くにたちブックマラソンの表彰も行いました。この取組は、国立市中央図書館主催で、決められたリストの本を全冊読んだ子供たちには、図書館から“読書名人”の賞状が送られます。本校からは2名の読書名人が生まれました。たくさんの読書名人が生まれるようになると嬉しいと思っています。



また、同じ日の16時から、FSXホール(くにたち市民芸術小ホール)で各校の6年生の代表が夏休みの自由研究について発表する会が行われました。



国立市教育委員会主催のこの取組も毎年行われていて、その年度の各校の6年生の代表が集まり、夏休みに取り組んだ自由研究について、成果を発表するものです。専門的な学びをされている研究員からの講評を受けることもでき、これもとても貴重な経験の場所となります。

発表をした6年生全員、優秀賞として表彰を受けました。

チーム六小の取組

本校には、六小サポーターの皆さんのように、教育活動を支えていただいている、たくさんのボランティアの方々がいらっしゃいます。校外学習の安全管理や学習活動のサポート、学校行事のお手伝い等々、多くの力を結集していただいています。

また、学校においても、教職員が様々に連携して、学年や学級をサポートしています。担任だけの関わりだけでなく、多くの先生方が関わることで多くの体験や経験が積まれ、その子どもに必要な身に付けるべき力が蓄積されていきます。

スマイリースタッフや子供と家庭の支援員、時間講師、また、時に応じて学校にいる全ての職員が関わることで、子供たちの成長が図られていることは間違いありません。

教職員とボランティア、そして、各ご家庭の保護者、更には、PTA や地域の方々。この連携によるチーム力が本校には、必要であり、なくてはならないものです。「チーム六小」という言葉は、この関わりを更に高めていく中に、確固たるものになっていくものだと思います。学校としての現在の取組で言えば、学年や学級の授業時などに多くの先生方が関わったり、面談においては、担任以外の先生方も同席をしたり、時には、管理職も同席をしたりと様々に対応しています。



また、地域との連携では、開校55周年を機に六小バンダナを整えていただいたPTA、サマースクールや夏まつり等のイベントを通して、子供たちの健全育成に取り組んでいただいている育成会、毎朝の登校時の児童の安全を見守り、支えていただいている学童見守り会など、コミュニティスクールとしてのチーム力は、頼もしい限りです。

六小に関わる全ての皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。更によりよい連携を図り、発展させていくため、学校として力を尽くしてまいります。引き続き、よろしくお願いいたします。

【校長のつぶやき】

今年度は、本校の校歌が制定されて20周年という時ですが、その年に音楽が好きな私が、この六小に異動するとは、本当に不思議なご縁だと思っています。特に、本校の校歌は、合唱曲に近いと感じていますので、より親近感や嬉しさを覚えます。🎵

私の合唱歴は、小学校5年生の時に母から「やってみたら」という言葉がきっかけで、合唱団に入団した時から始まります。その後は、中学校、高校、大学、社会人と、ずっと合唱に親しんできましたので、合唱になくてはならない「ハモる」という感覚（あくまで、個人的見解です）は、今も例えようもなく好きなものの1つです。逆に、ハモりが上手くない演奏を聴いたり、演奏したりした時の残念さは、ついつい表情に出てしまう程です。校歌は斉唱なので、ハモりはありませんが、自分の頭の中では、ここがハモるといいなあと、考えてしまいます。🎶

また、私は、大学生の時に学生指揮者となったので、歌を歌ってハモることも大好きですが、指揮者として合唱指導をする中で、楽曲のどの部分をどのようにハモらせるか等、歌うことの喜びに加えて、音楽を作る喜びも手に入れたように思います。🎵

合唱は、一人ではできません。また、「ハモり」による音の広がりについても、少人数のアンサンブルにないものがあります。この感性や感覚をもったことで、教員としての学級創りや今の管理職としての学校創りに大いに生かされていると言えます。合唱との出会いに感謝です！！